

# 葦

大阪発達総合療育センター機関紙  
第40号 2021年春

## INDEX

・葦40号によせて	1P	・就任のご挨拶	3P
・ご挨拶	1P	・リレーエッセイ	3P
・センターの歴史3	2P	・入職式	4P
・令和2年度卒園式	2P	・寄付金と寄付物品	4P
		・職員研修実績状況	4P

## ■葦40号によせて

社会福祉法人 愛徳福祉会 理事長

鈴木 恒彦



新年度を迎え、当法人は32名の新人職者を迎えることができました。今年は創立51年目ですが、次の100周年に向けた2年目に入ったことを意味します。新看護部長増田氏と新リハビリテーション部長佐藤氏の鋭気に溢れた力強い就任のあいさつが載っています。お二人には魅力ある療育環境の更なる向上のため奮闘を期待しています。連載中の法人の歴史では、南大阪療育園設立後の大変なご苦勞がしのべられます。あさしお園からはコロナ下での卒園式の工夫が西野園長から報告され、PT木村氏からは読書の独自の楽しみ方が述べられ、共に感心させられます。新型コロナの変異株が猛威をふるい、全てのことが自粛ムードの中、障がい児の療育で求められる子どもの潜在の能力の探求と牽引や情報交換では、少なくとも自粛の要素は微塵もありません。今後も日々の実践の中で気付いたことや疑問に思ったことは互いに積極的に検討し合い、次のステップを考えていきましょう。

## ■ご挨拶

大阪発達総合療育センター センター長

船戸 正久



コロナ禍第4波の緊急事態宣言の最中、ご利用者の皆さま方にも感染予防にご協力いただき、心から感謝申し上げます。こうした中で新年度を迎え、昨年度と同様感染予防対策に注意を払いながら、無事入職式を行うことができました。今年度も32名の新入職員を迎えることができ、新しい風の到来に職員一同心から嬉しく思っております。また新年度に当たり、看護部の責任者が中山昌美前部長から増田恭子部長に、リハビリテーション部の責任者が黒澤淳二前部長から佐藤邦弘部長に交代いたしました。退職されたお二人は共に当センターの発展に多大なお力添えいただきました。感謝いたします。看護部もリハビリテーション部も新体制の出発となりますが、今後とも職員始め皆さま方のご協力・ご支援を宜しく願います。



今回は社会福祉法人愛徳福祉会 南大阪療育園設立後の運営に関するお話です。

1982年当初、社会福祉法人 愛徳福祉会 南大阪療育園は入園部門70床、通園部門定員40名で運営をスタート。その後、木造2階建ての部分で改築し1984年には2階病棟の定員を22床から32床に増床し、合計80床となり、以後大阪発達総合療育センターに移行するまでこの体制は続けられました。

入園部門は2病棟あり、1階北側に措置児童を対象として定員48名の北病棟、2階に一般入院を目的とした定員32名の2階病棟でした。

当時、全国の肢体不自由児施設を始めとした障がい児者施設については、全て措置入園でありました。

しかし、聖母整肢園開設時から梶浦一郎医師は一般での入院の必要性を考慮して、一般病床として34床を確保しており、これは南大阪療育園に変わった後も継承され一時22床に減少したものの手術室の改装と共に32床に増床したのであります。

この一般病棟により、脳性麻痺児の早期治療や、全国からの患者様を受け入れることが可能となったのでした。

入院（入園）期間は6カ月から2年程度、その間の学校教育については、南田辺小学校の分教室が2階病棟の隣に配置され、地元に戻った時にも勉強についていけるように配慮されていました。当時を知る職員によると寧ろ少人数教室のため、地元の学校教育よりも手厚い教育を受ける事が出来ていたようでありました。このように聖母整肢園から引き継がれた後も、病床も満床状態で順調に推移していましたが、その後、いくつかの要因により南大阪療育園の経営は困難に直面することになります。

当時の資料によると、それは、周産期医療の進歩により脳性麻痺の発症率がかつての0.2%から0.05%に減少し、かつ少子化が急速に進んだために治療対象としていた児童が減少したことと、一方で大阪府立母子保健総合医療センター（現在の大阪母子医療センター）にリハ部門が出来て、周産期だけでなく、小児の総合医療センターに発展するなど、南大阪療育園以外にも早期治療が可能となったのでした。加えて大阪市立リハセンター（現在の大阪市立障害者リハビリテーションセンター）が通園の療育部門の業務を開始するなど大阪府下でも20を超える通園施設の新設等が進むなどして利用児の減少が懸念されました。実際1986年（昭和61年）の決算では、それまでは何とか黒字をキープしていましたが赤字決算となるなど、そういった外的要因が少なからず影響したのと思われる。

このころ理事長の梶浦一郎医師も年頭の挨拶では常にこのことに



北病棟における食事風景、真ん中で食事介助している職員は誰かな～？



北病棟詰所でのカルテ記録風景。

言及し、1987年（昭和62年）の年頭あいさつでは「多くの外的要因により法人運営が困難に直面している現状を職員で共有し、打ち勝つためには外的要因に責任を転嫁するのではなく、自分達が出来た事に集中すること。つまり利用児、またその親御さんにも選ばれる法人であることを目指して個々の職員のスキルアップに精進することが唯一の法人の残る道である」と述べられていました。同じ年には園長の大下舜治医師を委員長として「経営検討委員会」が発足。外的要因に打ち勝つための施策の検討を行い、運営状況改善を目指しました。その委員会では「障がいのあるこどもたちによりよい療育を提供する」という法人設立時の目的を再認識し、具体的な方策を検討しました。その結果、当時はまだ受入れが困難とされていた全面介助が必要な児童の受け入れや、外来リハビリテーションの空き枠を埋めるためのスケジュール管理等、業務改善を行いました。その効果は翌年からの業績に表れ始め、その後は一度も赤字に転落することがありませんでした。その後1999年（平成11年）には法人設立後初めて成人の方を対象とした重症心身障害児者通所訓練事業（B型）「なでしこ」（現在の生活介護事業「なでしこ」）を開設。これは聖母整肢園開設時から診ていた多くの患者様が成人された後、継続したりリハビリテーションと日中活動のニーズが高いと判断し、開設されました。

そして2003年（平成15年）に大きな制度改革がありました。それは従来の措置制度から支援費制度に移行されるというものでした。この制度により利用者様が選び、利用したい施設、サービスを定める事が可能となりました。（措置制度では全て各自治体が決めていました）。この制度改革によって、利用者様からより一層選ばれる施設であることが求められることになりました。（次号へつづく）

## 令和2年度卒園式「コロナとともに」

あさしお園長 西野 紀子

令和2年度は通常通園さくら組から6名、並行通園ばら組から12名のお子様卒園されました。

1年間感染対策を優先する中で療育を継続し、どんな形で卒園式が迎えられるのか、私たち職員も不安がありました。結果として、卒園児のご家族のみの参加とさせていただきます。卒園証書授与では、ご家族ごとに部屋に入り、ご家族で写真撮影し、



他の参加者はZOOMで別室から見守っていただきました。初めての試みで音声が届かないというトラブルにも見舞われましたが、お父様方がパソコンの不具合に対処して下さい、参加者みんなで作り上げた温かな卒園式となりました。

今回は、卒園児のお姉さまが「お礼のことば」を述べてくださいました。ご本人とご家族の了解をいただき一部掲載いたします。



「あさしおえんのみなさまへ」

5年間、弟がお世話になりました。わたしは弟がほしかったので、ママのおなかの中にと知ってとてもうれしかったです。でも、ほいくえんの友だちとくらべて、弟だけあそべなかったの、ふしぎな気もしました。でも、あさしお園でいっしょにプールをしたり、夏祭りのゲームをしたり、音楽をきいたり、他ではできないことをたくさんできたので、あさしお園にはかんしゃしています。気がつけば楽しい思い出がいっぱいです。これからも楽しいあさしお園がずっと続きますようにいのっています。

あさしお園は、たくさんのお子様たち、ご家族に支えていただいていることを実感しました。これからも、柔軟に新しいことにチャレンジするあさしお園でありたいと思います。

## 就任ご挨拶

リハビリテーション部 部長  
佐藤 邦洋



2020年12月よりリハビリテーション部の部長に就任しました佐藤邦洋と申します。理学療法士として約20年間、中枢性神経系疾患の脳卒中後遺症者、脳性まひ児者の医療に携わっていましたが、2016年9月から当センターで働く機会を得て、わかば部門に配属となりました。大阪発達総合療育センターは、聖母整肢園、南大阪療育園へと、ポバース概念創始施設として発展し続け、私がポバース概念を学び始めたところからの憧れの職場でした。利用児者様の個性を重要視し、個々の潜在能力を引き出すことで、より快適で豊かな生活を送れるよう考えられた療育的要素の強みを活かせることが当センターの魅力です。

私自身、中枢性神経系疾患、特に脳性まひ児者の医療に関わるにつれ、ある一定期間の切り取った医療だけではなく、その方自身のライフステージに合わせたマネジメントの実践が重要であると考えようになりました。その実現に向け、一人ひとりの個性を大切に考えて、利用児者様とご家族を中心とし、より医療、療育に関わる多職種連携が必要になると考えます。当センターでは、リハ部新入職員の病棟療育部研修が2018年4月から開始し、2021年4月には新入職員対象に看護部、療育部、リハ部合同でのOJT研修を実施しています。各職種がそれぞれの部署研修の開始前に他部署の部門リーダーから研修を受け、様々な視点での気づきを促し、各部門の業務内容を知ること、専門職種としてより質の高い支援の提供を目指し取り組んでいます。

梶浦一郎名誉理事長から学んだ「謙虚と挑戦」の気持ちを忘れずに積極的に取り組んでいきたいと考えます。まだまだ未熟でご迷惑をおかけすることもあると思いますが、皆様方のご助言、ご協力をいただきながら前に進んで参りたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

## 就任ご挨拶

看護部 部長  
増田 恭子



「思いを知り 思いに応える」ことができたなら、そして、いつもの看護・ケアにちょっとした思いやりや心配りをプラスすることができたなら、素敵だと思いませんか。

私は、センターに就職した頃、重症心身障がい児看護の難しさを痛感すると同時に、楽しそうに働く先輩たちの姿に、なぜ?なんで?と先輩たちの行動を目で追いかけていました。「なんか(状態)悪くなりそうやなあ」と勘がはたらくようなことをいうがそれがあたってしまう、声にならない声に耳を傾けコミュニケーションをとっている、相手がしてほしいことを聞き当てている、どっちがいいの?と意思を確認している、一緒に笑っている、時には喧嘩をしているようにもみえました。そこには、個性や多様性に応じている、信頼関係があると気づきました。今こうしてセンターにいる私は、一人ひとりの個性の違いを楽しみ、成長発達に喜びを感じ、あなたがやらねば誰がやる!という思いに駆られます。病棟で歌を一緒に歌ってくれる(そう思い込んでいるかもしれないが)のを一つの楽しみにしていました。現場から離れるのはとても淋しい思いでしたが、管理職だからできることがある、自分を鼓舞しちょっと頑張ってみようと思います。慣れない数字だらけの書類に、覚えきれない会議の日程に、わけのわからない言葉のオンパレードに頭を抱えています、日々学び力をつけたいと思います。

センターの利用者様とご家族様には、コロナ禍での面会制限や感染対策にご理解ご協力いただき感謝しています。なんとかかせねばと思っております。

センターの利用者様が幸せでこころ豊かに生きていけるように、スタッフが楽しく働き続けられるように、「繋ぐ・繋がる・繋げる」を意識して実践していきたいと思えます。

私一人では何も成しえませんが、みなさまの力をおかりしたいと思いますのでどうぞよろしく願いいたします。



あさしお園 木村 基

あさしお園の木村です。私は本が大好きで、幼少の時から紙に囲まれて生きていきたいと思いながら過ごしてきました。現在は大好きな本2000冊程に囲まれながら生活しています。通勤時間に読書をしていて、1週間に1冊から2冊程度読んでいます。本棚の各棚には仕事、文学、歴史、美術、スポーツなどジャンルに分けて入れています、各棚から毎回1冊ずつ順番に取り出しながら読み進めているので、次回はどの様な内容の本になるかはわかりません。毎回違うジャンルの本を読むことで想像することや、考えることも変わり、毎日の通勤が楽しいものとなっています。本屋に行く時のわくわく・ドキドキ感、本を読み終わり、次の本を探す時に書齋へ入る際の高揚感が仕事の疲れを取り除いてくれます。これからも紙の香りを楽しみ、本の重さを感じ、ページをめくる音に酔いしれながら家族と紙に囲まれて生活できればと思っています。次回はあさしお園保育士 中尾礼子さんです。お楽しみに!



# イベントトピックス

## 入職式

令和3年4月1日に入職式が執り行われました。

今年は、32名の新入職員が入職しました。入職式の後、3日間のオリエンテーションと各種研修も実施されました。



## 感謝

大阪発達総合療育センターへの御理解・御協力誠にありがとうございます



(R3.1 ~ R3.1)

(R3.1 ~ R3.3)

一般寄付金

月	寄付者 (敬称略)	
2月分	富永ひな子	本園
	高田良子	
	射延瑞枝	
	匿名	
3月分	一般財団法人大阪福祉防犯協会	

寄付物品

	寄付者 (敬称略)	物品名	
1月	匿名	タブレット	本園
	匿名	おもちゃ	本園
	カフベンテック(株)	フィンガーパルスオキシメーター	本園
2月	匿名	おもちゃ	本園
	出野彩佳	おもちゃ	本園
	セブンイレブン佐藤宏紀	恵方巻	分園
	木村咲歩	オムツ	分園
3月	出野彩佳	おもちゃ	本園
	匿名	おもちゃ	本園
	匿名	オムツ	本園

## 職員研修実施状況

令和2年1月～

当センターでは、質の高いチーム医療の提供をめざして、様々な職員研修を行い、技術の向上と知識の蓄積を図っております。

実施日時	企画部署	研修名	講師	参加人数	場所
令和3年1月30日(土) 9:00～12:30、 13:30～17:00	教育研修部	人権研修 「ハラスメント防止研修」	株式会社インソース 河岡はずみ氏	34名	5階ホール
令和3年3月29日(月) 17:40～18:40	教育研修部	「コロナ禍における医療型障がい児 入所施設の課題と対応」	副院長兼医務部長 竹本 潔	105名	5階ホール他



## 大阪発達総合療育センター

URL : <http://osaka-drc.jp>

南大阪小児リハビリテーション病院(保険医療機関)  
フェニックス(医療型障がい児入所施設・療養介護事業・短期入所事業)  
主として重症心身障がい児者  
わかば(医療型障がい児入所施設・短期入所事業)主として肢体不自由児  
ふたば(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業)主として肢体不自由児  
いぶき(特定相談支援事業・障がい児相談支援事業)  
なでしこ(生活介護事業・児童発達支援事業)

〒546-0035 東住吉区山坂5-11-21  
TEL:06-6699-8731 FAX:06-6699-8134

発行者・社会福祉法人 愛徳福祉会  
発行責任者・鈴木恒彦

訪問看護ステーション めぐみ(指定訪問看護事業)  
TEL:06-6699-8855 FAX:06-6699-8856  
ヘルパーステーション めぐみ(指定訪問看護事業)  
TEL:06-7506-9223 FAX:06-6699-8856  
〒546-0035 東住吉区山坂5-9-16

大阪発達総合療育センター あさしお診療所(保険医療機関)  
あさしお園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)主として肢体不自由児  
ゆうなぎ園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)主として難聴児  
〒552-0004 港区夕凧2-5-3  
TEL:06-6574-2521 FAX:06-6574-2524